

「元気な富山の未来を描く」

～人口減少が進む中、地域の経済力を維持し、活力ある明るい富山の未来を描く～

○提言の趣旨

人口減少時代における地域創生戦略として、富山ならではの**定住人口・交流人口の拡大**策やそのベースとなる**公共交通の将来像**について提案



- ①富山の資源を活用した魅力ある**産業の創生**
- ②都市間交通等の整備や**外国人観光客の誘致**の推進
- ③鉄軌道の利便性向上など**県内公共交通の充実**



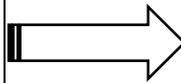
IoTプラットフォームを活用した効率的な公共サービスの提供や広域連携のあり方についても検討を進める
(海外の先進事例ースマートシティ先進地ー視察を実施)

○提言構成

<第1章 富山県の現状と課題>

【現状分析と課題抽出】
①富山県の人口構造と将来像
②富山県の働きやすさと住みやすさ
③人口減少が私たちの生活に与える影響

活力ある明るい
未来のために



【富山県人口の社会減と求められる対策】
・世界から注目される新産業の創出
・外国人観光客誘致による交流人口の拡大
・県内公共交通の充実
・官民一体となったデータプラットフォームの構築

<第2章 元気な富山の未来像>

1. 定住人口の拡大に向けて

地域に特有の豊富な潜在資源を最大限に活用し、産業界と行政との密な連携のもとで高付加価値化を進めることにより、魅力ある新たな産業を創出（産業化）する。

2. 交流人口の拡大に向けて

都市間や観光地間の交通を充実させるとともに、外国人観光客を誘致し併せてキャッシュレス決済の推進や多言語化への対応を図るなど観光の利便性を向上させる。

3. 定住・交流人口拡大に資する地域公共交通の充実

「鉄軌道王国とやま」と言われるほどに充実している鉄軌道の利便性の向上をはかるとともに、鉄道並みの優位性を持つ新たな交通システムの導入を目指す。

4. 富山県として目指す「地方創生」

自治体間の連携を強化し方策を広域的に展開していくため、共通するデータプラットフォームを構築するとともに、自治体・企業・大学等の協力体制を整備する。

<別冊 富山まちなかスタジアム構想 phase II >

「まちなかスタジアム構想」（2015年4月提言、コンパクトシティ政策に資する多機能複合型大規模集客施設の整備による持続可能なまちづくり）について、実現の手法再確認。